

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291200071		
法人名	一般社団法人 正和会		
事業所名	グループホーム かわたな		
所在地	長崎県東彼杵郡川棚町下組郷397番地		
自己評価作成日	令和3年11月25日	評価結果市町村受理日	令和4年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和4年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍での生活が続く中、日々の過ごし方を工夫し、今できることを考案しながら支援している。家族様も不安にならないよう報告や面会、外出を継続してお互いの信頼関係を保つようにしている。職員もストレスをためないように、休暇を取れる体制を作っている。
同法人の事業所より、有資格者(看護師・理学療法士)よりアドバイスを定期的に受け、日常のケアに活かすことが出来ている。家族様にもその姿を写真で報告して共感をしてもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当法人はホームの前身の運営母体である医療法人紫雲会より、介護福祉部門を引き継ぎホームを運営している。コロナ禍の中、家族と入居者とのつながりを大切に、状況に合わせて感染対策を講じながら面会や外出、たよりの送付、電話での会話等、その方らしい生活を継続できるよう支援している。ホームの立地条件が良く、近くには医療機関や役場、駅、商店などの社会資源が点在しており、交通の利便性も優れていることで家族から好評を得ている。代表者、管理者と職員間のコミュニケーションも円滑で、職員には法人からマスク、消毒液の配布のほか地域の特産品を贈呈するなど福利厚生面でも配慮し、働き易い職場環境を整備している。理念である「家庭的で笑い溢れる楽しい馴染みの場」の浸透にホーム全体で取り組み、職員が入居者に寄り添った個別支援によりその方らしい生活を継続できているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 A ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念より抜粋した理念を馴染みやすい言葉で表現し、目につく場所に掲示することで常に念頭におき、ケアを実践している。	介護理念として「家庭的で笑い溢れる楽しい馴染みの場」を掲げ、ユニット毎に理念に沿った目標を作り、入居者の自立支援を目指しケアを実践している。毎月ユニットミーティングを行い、掲げた目標に対して振り返り、次年度の目標設定に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であるため、現在は地域との関わりが少なくなっている。	運営推進会議の構成メンバーへ議事録を配布する際に訪問し、地域の情報を収集している。現在、コロナ禍の影響により、実習生の受入れ、ボランティア活動等の交流は自粛している。当ホームを退所した入居者家族からの相談に応じて個人宅に訪問して相談を伺う事もあり、必要に応じて地域包括支援センター等の関係機関を紹介する等、地域との繋がりが大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍ということでこれまで実践していた学生との交流等が一切できなくなったが、入居者のご家族とは連絡を取り、常に入居者の状況を報告し、最善なケア、支援方法について提案したり、ご家族と共に考える機会を持つようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍において会議開催がでず、事業所からの報告を書面で提出したり、感染状況によっては行政と他の事業所全所にて合同の会議を行う計画もできている。	運営推進会議はコロナ禍により書面会議を開催している。入居者状況、各種行事報告、ホームからのお知らせ等を記載した議事録を構成メンバーへ送付している。ホームへの意見や要望は構成メンバーに随時電話等して聴取している。	運営推進会議事録の記載内容に関し、個人情報保護の観点から入居者名が特定できる記載方法について、例えばイニシャル表示にする等検討することが望まれる。また、書面会議であっても構成メンバーの意見が出しやすよう意見書の書式を工夫する等今後の取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場の担当者とは、相談しやすい関係づくりをとっている。	行政担当者とは各種補助金に関する質問や制度改正に伴う提出書類の書式変更等について連絡や相談を行っている。また、必要に応じて関係各所とファックス、電話、メールでの情報交換ができており関係性は良好である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルを常に目につく場所に置き、毎月のミーティング時に、自分たちのケアについての振り返りや検討を行ったり、3ヶ月ごとに委員会を開催し、各事業所の事例を持ち寄り、検討会や勉強会を行っている。又、オンラインでの研修会に参加する等学ぶ機会を設けている。	法人内に感染症、献立に関する委員会、事故防止委員会、身体拘束委員会、災害対策委員会を設置している。身体拘束適正化委員会を開催し、定期的に職員研修や意見交換を行い、職員が身体拘束を行わない支援に取り組んでいる。虐待防止についても身体拘束委員会の中で話し合い、振り返りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてのマニュアルを常に目につく場所に置き、毎月のミーティング時に、自分たちのケアについて、虐待と思われるような対応がなかったか振り返り話し合いを行ったり、3ヶ月ごとに委員会を開催し、各事業所合同の委員会でも振り返りや検討を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当事業所においては制度の活用にはなっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用の契約、終結した場合は必要書類にて説明を行い、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は、入居者様へアンケート調査を行い、家族様へ確認してもらい、本人様の意向をくみ取ったり、家族様の意見を聞き出せるようにしている。	ホームでは入居者へアンケートを実施し、「元気なうちにやりたい事」、「終末期の意向(最期をどこで迎えたいか)」等、本人、家族の意向を把握し、意向に沿った支援に繋げている。入居者本人より自宅に帰りたいとの要望があり、昨年末に帰宅に繋げ本人家族の喜びとなった事例が窺えた。アンケートは個人ファイルに貼付し、介護計画の見直し時にも活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの場や職員個人が、意見や提案を言える機会を設け反映させている。	管理者は職員と個別に面談を行い、意見交換を行っており、法人内の事業所間での異動も職員本位で対応している。定期的開催する職員会議では活発な意見交換が窺え、入居者への支援の際に気づいた点は随時話合う環境を整えている。有給休暇、緊急の休暇取得も柔軟に対応し、働きやすい職場環境を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員自己評価を行い、個々の努力や実績、生活状況に合せた勤務体制や変更など応じることで、働きやすい職場環境になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修の案内があり、各職員の力量や担当してる分野に合わせ、オンラインでの研修だが参加できる機会を設け、ミーティングの場で研修報告を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で同業者との交流が減ったが、グループホーム連絡協議会や電話等でお互いの情報を交換して、サービスの質の向上に繋がっている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報を収集し、状況を把握したうえで入居前の面談の際にも、本人が困っている事や要望等を伺い、安心した生活が出来よう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談の際から家族の要望をしっかりと聞き取り、入居する事に対し不安がないよう、今後も思いを共有し信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人に必要なサービスは何か助言しながら優先順を見極めて提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の会話の中で困っている事や不安に思っている事等がないか聞き取ったり、施設独自のアンケートに記入してもらい、思いを伺いながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話、担当者会議等でご本人の状態を伝え、家族の思いを聞き取りながら話しやすい状況を作り、絆を深め家族との関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染防止の為、馴染みの人との触れ合いや外出が減ってるが、その時の状況に合せ対策を行いながら、面会や外出、おたより、直接電話で話して頂く等、関係が途切れないようにしている。	入居者へのアンケート調査を通じて本人が元気なうちにやりたい事等を窺っている。コロナ禍の中、感染対策を講じて家族の承諾を得て自宅へ帰る機会を作る等、本人が大切にしている馴染みの場や人との交流の継続に向け支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係を考えて職員が橋渡しし、コミュニケーションがとれるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	暑中見舞いや年賀状を出したり、電話や実際に自宅訪問して状況をお尋ねして、必要に応じ相談を受け支援に繋げている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時や定期的にご本人の思いやご家族の意向を伺っている。会話や伝える事が困難な方は日頃の会話や表情の観察を行い、思いをくみ取り検討している。	ホーム内に面会スペースを設け、予約制によりコロナ禍の中でも入居者と家族が職員を交え直接会う機会を設けており、入居者や家族の意向の把握に繋がっている。職員は研修を通じて在宅で介護を迎えるにはどのような計画を立案することが必要なのかを学び、家族へ助言する等、家族の思いに寄った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に聞き取りした今までの生活歴や馴染みの暮らし方を参考にし、現在の状態に合わせた支援が出来るよう、新たな情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康観察にて体調管理を行い、その日の状況によって、ケアプランに添い一日の過ごし方を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にミーティングでモニタリングを行い検討している。突発的な課題は見直しをしてより良いケアに繋げている。	入居者アンケート及び担当職員、計画作成者によるアセスメント、全職員若しくは担当職員のモニタリングを経て担当者会議を行い、介護計画の見直しを行っている。日々の入居者支援で把握した情報は介護メモに記録を残し、職員間で共有している。介護計画は実行表で実施状況を表示し、支援に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中で気づきに対して記録に残し、スタッフの間で共有してケアプラン実行表も活用し、モニタリング等で見直し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時ご本人や家族の状況に応じ、必要な支援ができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	引き続きコロナ禍において地域の行事等が中止され参加できない状況の為、四季を感じてもらえるようホーム内で、季節に合わせた行事やドライブ、ベランダで外気浴等楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に受診し、本人やご家族の希望を確認し、適切に専門的な医療が受けられるように支援している。	歯科の訪問診療が毎月一度行われている。専門医療機関への受診には基本的に職員が同行対応している。同法人系列のデイサービス事業所の看護師が週に一度健康管理を兼ねホームを訪問している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師にその都度相談が出来るような体制をとっている。必要に応じて診察を受けれるよう医療連携を密にとっている。又、情報共有できるよう記録を残している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナ禍で、入院された場合は面会が出来ないが、入院中の病院と連絡を取り合い状況を把握している。ご本人やご家族との話し合いの場も設けており、それに伴い退院後の計画も立てている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の支援も当ホームで出来る事を説明し、ご本人やご家族と話し合いながら、意向の確認をし、アンケートも実施している。医療機関とも話し合いを行いながら、日々のケアに取り組んでいる。終末期を希望された方には寄り添えることを説明し、ご家族の要望に近づけるようにしている。	終末期となった場合は家族へ現在の状況を説明し、緊急時の対応も含め今後の方針を話合っている。その際、看取り指針についても説明し、ホームでできる対応を、主治医、家族も含めてホームの方針を共有している。ホームで終末期を迎えたいとの要望には、本人、家族の意向に沿い看取りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等で全職員が技術・知識の向上に努めている。ミーティング等でも話し合い確認しあっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	コロナ禍で外部からの協力を得る事は難しいが、定期的に自施設で訓練を行っている。又、訓練後は、反省を見直す機会を設け、必要に応じて対策を検討している。法人全体での話し合いを定期的に設けている。災害用の物品・食品等も準備し、チェック・補充をしている。	コロナ禍以前は、消防署、地域消防団が参加した訓練が行われていたが、現在は自主訓練で水消火器を使用した操作訓練も行っている。地震を想定した訓練も実施し、参加した職員による反省点の検証も行っている。現在、法人全体とホーム独自の感染症対策及び自然災害発生時の事業継続計画の作成に取り掛かっている。緊急時対応マニュアルは所定の位置に配置し職員が閲覧できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活習慣を理解し、信頼関係を築けるよう、その方に合った声かけを心掛けている。	コロナ禍により今年度の外部研修への参加は難しく、接遇マナー研修等の各種研修はオンラインによる参加に切り替えている。管理者が日頃の支援を通じて感じた気づきを職員会議で話し、適切な対応策を検討し職員の入居者を尊重した対応や姿勢、接遇状況等の再確認を行っている。職員は居室への入室時や排泄の誘導時にはプライバシーや尊厳に配慮した声掛けに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の関わりから、思いを伝えてもらえるような雰囲気作りを心掛けている。又、思いを叶えられるよう傾聴し、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分をお尋ねし、一人ひとりに合ったケアやレクリエーションを行ったり、集団での関わりを支援している。理学療法士の指導のもと、個別にマッサージや運動を行い、リラックスできる時間も設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容や、入浴時には着たい洋服を選んで頂いている。ヘアークットやカラーなど定期的に行い、外部から来て頂くことで馴染みの美容室との関わりを継続している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備やおやつ作り、片付けなど入居者同士、スタッフが一緒になってお喋りをしながら関わりを持って支援している。又、旬のものやバランスを考えたり、栄養士に相談・指導をもとにメニューを作成し、季節食、行事食を取り入れている。	食事は入居者と職員が一緒に下拵えや配膳を行い、和やかな雰囲気での食事風景が窺える。同法人系列のデイサービス事業所の管理栄養士と定期的に献立に関し意見交換を行うほか、食事は調理専門職員や他の職員が交替で調理し、季節に沿った旬の食材を使用し提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好まれるものを提供したり、一日の水分摂取に努めている。形状、食器などの工夫をしたり必要に応じてミキサー食やとろみを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は磨き残しがないか確認を行い、必要に応じて個々に合った歯ブラシ、磨き粉や薬用マウスウォッシュ、モアブラシなど活用している。又、定期的な歯科受診や往診にて治療やメンテナンス、指導を受けていることで、口腔内の清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを活用し、声掛けにてトイレ誘導を行うことで、失敗やパットの使用量を減らしている。又、布パンツでも心地よく生活できるよう、排泄の自立に向けた支援に努めている。	日中は入居者の排泄パターンに沿った誘導を行い、トイレで自立した排泄に繋げている。夜間帯はポータブルトイレを使用した支援も行われている。リハビリパンツの使用状況についても、職員間で適切な使用量を検討し、家族の金銭的負担に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせて、毎朝牛乳やヨーグルト、白湯などを提供している。レクリエーションを通じて、軽体操や腹部マッサージなど行ったり、ペランダやユニット内を歩いて、適度な運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調や気分に合わせて支援を行っている。入浴剤や季節を感じられるように菖蒲や柚子湯などを用いて、気持ち良く入って頂けるよう努めている。全身の確認を行い、医師や看護師の意見を受けた適切な入浴や軟膏塗布など行っている。	入居者毎に週3回を基本に入浴を支援している。入浴を拒否する方や入浴順の希望、体調の変化に対応できるよう、毎日入浴ができる準備をしている。入浴時は職員との会話も弾み、本人から情報収集する最適な時間と捉え取り組んでいる。新たな気づきや情報は介護記録に記録を残し、職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は軽体操や家事などして頂き、昼間はソファや畳などに休まれるよう支援しています。夜間は室内の照明や布団の調整、温度管理を行い、必要に応じてポータブルトイレを設置しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や効能や用量は理解しており、受診時には症状を伝え、主治医に相談している。家族へも変更時はその都度説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いでは野菜切りやお菓子作り、洗濯物の処理、食器洗いなど、本人の出来る事を分担し役割を持っている。楽しみ事ではレクリエーションやベランダに出て外気浴で気分転換を行い、一人ひとりの特技を活かして計算問題や日記を書いたり能力に合わせた支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は季節を感じられるよう外出の支援に努めている。コロナ禍の為、地域の人々との触れ合いはないが、数日に分けてご本人の行きたい場所や馴染みの場所への外出、自宅訪問ができるよう支援している。	気分転換を兼ね、ホーム内での運動会、ミニ夏祭りを行ったり、ドライブを兼ね近隣神社に初詣に外出したり、アンケートの希望に沿って帰宅に繋げる等、現状でできる事を支援している。好天時はホーム敷地内で日光浴し、入居者同士で会話するなど穏やかに過ごされている。コロナ禍以前は寺院や教会などへの外出も行われていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為、本人を連れての買い物の支援は出来ないが、欲しい物や必要なものがある時は購入している。お小遣いの管理をしながら、残金に合わせて家族に伝え補充している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字を書ける方は手紙や写真を毎月のお便りに同封したり、年賀状・暑中見舞い(写真付き)を書いて頂き、書けない方は職員が代筆し支援を行っている。コロナ禍でしばらく会えない時は電話をかけ直接話してもらったり、オンライン面会の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事ごとに撮った写真や飾り付けで季節を感じてもらい、照明や温度調整など心地良く過ごせるようにしている。食堂では個人で使用するのは名前を記入し、個人で持てるよう椅子の後ろの袋に入れ、混乱しないようにしている。	共用空間は、朝、昼、夜に、窓及び出入口を開け定期的に換気を行うと共に、空気清浄機を設置している。手摺、椅子、テーブル等、直接手を触れる部分は毎日除菌剤を使用して拭き取り、感染症対策を講じている。居心地の良い空間とはその入居者にとって何が居心地が良いのかを考慮し、たたみやソファ等配置し、その方が思いおもいに生活が送れるよう環境作りを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気に入った席や気の合う方同士を同席にしたり、ソファや畳等で落ち着く場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものや馴染みのものを居室に置き、使いやすい配置の工夫をすることで、安心してもらっている。又、家族持参の写真など飾ることで喜んでもらっている。	入居時に、書面で居室への持込品に関する説明を行っている。居室へ火気類の持込みは不可としており、刃物類、高額品などはその都度話合いの上自己責任のもとで対応している。居室は定期的に清掃、換気を行い清潔に保たれている。また、本人の馴染みの家具の配置や家族写真等が飾られ、入居者は居心地良く過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は手すりの緩みがないか、危険なものはないかなど環境整備を行っている。一人ひとりの出来る事、理解出来る事、能力に合わせて付き添いや声掛けなど安全に自立した生活が送れるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 Bユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念がサービスの基本であることを念頭に置き、基本理念以外にもスタッフ全員で考えた介護理念もあり、どちらもスタッフが目につきやすい場所に掲げて掲示することで、皆で想いを共有し、常に意識して実践に繋げることが出来ている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度もコロナウィルス感染の観点から地域の関わりが難しい現状が続いているが、運営推進会議のメンバーの民生委員を通して地域の繋がりが途切れないようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会の制限や外出・外泊が自由にできない現状で、入居者様の家族様の認知症に対する不安や対応の仕方など相談を受けることもある。それぞれに合わせた支援の方法を話すことができています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症対策にて、運営推進会議の開催に至らず、文章にて報告を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政の担当者とは、連絡とりやすく報告や相談が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な身体拘束委員会を開催しているが、委員会以外にも月に1回ユニットミーティングの際にも話し合う機会を設けている。法人内でも合同委員会の開催も行われており報告し意見を聞くことができていることもあるなど、玄関の施錠も含め身体拘束をしないケアの工夫や取り組みができている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な委員会の開催やミーティング・研修への参加を通して学んで考える機会があり理解を深めている。虐待と思われるようなことがある時は、その場でも注意し合えるようなスタッフ間での意識付けもあり防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当事業所では制度の活用を必要となるケースがない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される前にホーム内の見学をして頂き、ホームの特徴など説明し納得してもらい契約を交わしている。入居後も改定に関しては、不安や疑問点を尋ね話し合いや説明を十分に行い同意を得るなど努めることができている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしている。面会時にも要望を聞き、ご本人様アンケートも実施できている。意見や要望はミーティングや申し送りで伝え、サービスの向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務中に出た意見や気付き、要望などは申し送りやミーティングを開催し検討している。全職員の意見も取り入れ改善できたり、代表者にも相談できている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の仕事に対する姿勢など把握し、家庭環境にも配慮しながら、急な私用にもなるだけ対応できるような環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の適性を分析・把握しながらその能力が十分に発揮できるように研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍でもあり、同業者との交流の機会は少ないが、電話などでこまめに連絡を取り合い情報交換、悩み、疑問について意見を交わしたりするなどし、他事業所との関わりを継続しサービスの向上に繋げている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅訪問を行い、ご本人やご家族様の要望、困っていることを聞き取り、安心・安全にサービスを受けられるように信頼関係を築くことに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する際、ご本人やご家族様の思い・不安などを聞き取り、願いに添ったサービスの提供を行い努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の状況で、ご本人やご家族様の心身の状況や要望、意見を汲み、見極めて適切なサービスの提供ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、介護される一方の立場ではなく、利用者様の要望や思いに耳を傾け、それぞれの要望に添って調和のとれた暮らしが実現できるようにし、共に暮らしをする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からの情報と要望や意見を伺いながら、ご家族様と職員が協力し合い、一緒に支え合えるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で制限された状況の中でも、できるだけ本人様がこれまで生活の中で築いてこられた馴染みの人や場との関係が疎遠にならないように、個々の支援を行うことができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの性格・関係を把握し、一人ひとりが孤立しないように努め、居心地の良い生活が送れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、訪問したり電話を入れたり、年賀状や暑中見舞いのハガキの交換も行い、必要に応じて相談に応じるなど関わりを持った支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを引き出しながら、意思疎通の困難な方は表情やしぐさなどから気持ちを汲みとり、必要に応じてご家族様や馴染みの方に協力をお願いしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に以前の生活歴や環境を伺い記録し、スタッフ全員で把握に努めている。又、日々の会話や家族様の面会時など新しい情報を得た場合は記録を追加しスタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の支援に力を入れており、入居者様一人ひとりの思いや好み・馴染みの生活・有する力の情報を共有し、その人らしい生活が送れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画書の作成の為、入居者様のモニタリングをミーティングなどを利用してスタッフ全員で行い課題やケアのあり方について話し合うことができています。本人様・ご家族様・スタッフ皆の思いを反映し作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践・結果・気づき・工夫を個人記録に記入し、又、ミーティング時に話し合いスタッフ間での情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様の状況を把握し、個々の様々なニーズに対応できるように柔軟な支援やサービスを検討し、対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度もコロナウィルス感染の観点から地域行事の参加が難しい現状が続いているが、地域テレビや動画、広報誌などを利用して以前の生活を思い出したり楽しんで頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様やご家族様が信頼されている地域の医者との関係を継続しつつ必要に応じて他の医療機関も受診し適切な医療を受けられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内の看護師が定期的に入居者様の状況・経過を確認しているが、必要時にも適宜相談を行い早期に適切な医療を受けることができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院された場合も、相談員等病院関係者・ご家族様との連絡を密に行い、状態を把握することで、できるだけ早く退院できるような関係づくりや支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病気などが重度化した場合や終末期のあり方については、早い段階からご家族様・ホーム側・主治医・看護師を含めて話し合いを重ね、本人様・ご家族様の意向に沿った支援ができるようにスタッフ間でも情報交換しながら、チームで協力し取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的な知識を習得するため、研修や勉強会・オンライン研修にもスタッフ全員が参加できるように設け、訓練や技術が習得できるようにしており、それぞれが積極的に参加することで実践に繋げている。。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	昼夜を問わず火災や自然災害に対応できるよう定期的に訓練を行っている。地域の消防団の方から指導を受けながら訓練を行うことで協力体制を整え、全職員が身につけて未然に防ぐ対策をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を見極め、尊重しその方の誇りやプライバシーを損なわないような接し方や対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、入居者様の思いや希望を聞いたり、時にはアンケート形式で思いや希望を考える時間を設けるなどし、自己決定ができるような働きかけや支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを大切にし、その方の希望や好む活動を取り入れて過ごしやすい支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな色、好みの服装や身だしなみができるよう選んで頂いたり、同じ服装ばかりが続かないように気を付けて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れた献立を考え、個々に合った食べやすい調理方法で提供し楽しんで頂けるようにしている。野菜の下ごしらえなど簡単な調理にも参加して頂くなど一緒に食事への活動ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量やバランス、水分量を把握し、状態や習慣、好みにも応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助で口腔ケアを行い、清潔を保つよう支援している。定期的に歯科往診を受けてメンテナンスをもらいながら、ケアの方法や道具の選び方など指導を受け対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄習慣や動作を把握し、トイレでの排泄ができるよう声掛け・誘導支援を行っている。又、布パンツでも可能な方には積極的な使用を行うことでパットやリハビリパンツ使用の軽減、排泄への自信に繋げるなど自立にむけた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物は、乳製品や食物繊維の多い食品を取り入れるなど工夫して提供している。排泄チェック表を共有・活用しながら、個々の排便の状況を確認し応じた運動、活動へ参加促し便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴の時間を設け、一人ひとりの入浴時間やタイミングに配慮し、適温でゆっくりと入っていただけるよう支援している。又、ゆずや菖蒲湯等の風習を取り入れ季節感も楽しんでいただけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具や居室飾りを使い慣れた物にししたり、室温にも配慮し個々に合った声掛けの仕方に対応し心地よい眠りにつけるように支援している。又、日中の活動・適度の運動を取り入れることで夜の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容を分かりやすいよう記入し、変更時も全員が把握できるよう申し送り等を徹底し、作用による変化・経過等も記録に残し話し合いを行っている。又、分からないことは主治医・薬剤師に確認し、把握・理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かし、裁縫や習字・俳句やそろばんなどの個別支援を行い楽しんで活動して頂いている。又、洗濯物干しやたたみ、調理の参加など生活の中での役割からも張り合いのある生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症の観点から外出の制限が続いている為に希望に沿うことが困難ではあるが、少人数でのドライブや散歩などできる限りの支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ感染症の観点から外出して買い物をする機会は持てないが、欲しい物や値段を相談しながら職員が購入できるように支援している。希望がある方は、ご家族様と相談してお金の所持ができるようにも支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望やお尋ねをして電話を掛けたり、コロナ禍で帰省できない家族様にも自由に電話を取り次ぎ、写真付きの季節ごとの便りを作り宛名を本人様に書いて頂いている。書いたり、会話が難しい方にもスタッフ間に入って橋渡しを行い支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全と清潔に配慮した環境を整え、案内表示を手作りし、壁飾りなども生活・季節感を取り入れ温かみを感じ居心地の良い空間を提供している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳・テーブル席・ソファを置き各々が居心地の良い場所でゆったりとした暮らしができるようになり、各々のアルバムや馴染みの本、地域広報誌や新聞も置くなどして思い思いに過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体状況や好みに合わせた空間作り、馴染みの寝具、家族写真など本人様・ご家族様と相談しながら居室を居心地の良い場所にできるように工夫してしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ安全に自立した生活ができるよう、一人ひとりの能力・身体機能・性格などに十分把握し、個々の目線に合わせた環境作りを行い日々確認している。		